

おにぎり同時作成ギネス記録挑戦:完全ガイド

1. 現在の記録状況

1.1 最新記録

「最多人数での同時おにぎり作り」 - 記録: 1,876人 - 達成日: 2017年11月5日 - 記録保持者: 公益社団法人日本青年会議所 川崎JC - 開催地: 神奈川県川崎市 - 総参加者数: 1,980人 - 失格数: 104人(失格率5.3%)

1.2 記録の歴史的意義

川崎は江戸時代の東海道の宿場町として、携帯に便利な三角形のおにぎりが誕生した場所とされており、おにぎり発祥の地としての歴史的背景を持っています。この文化的意義が記録挑戦に深い意味を与えました。

2. 2016年の記録更新ラッシュ

2016年には、わずか約4ヶ月間で**6つの新記録が次々と樹立**される異例の競争が繰り広げられました。この歴史から成功のパターンを学ぶことができます。

2.1 記録更新の詳細推移

2.1.1 帯広大谷高校（北海道）

- 日付: 2016年7月8日
- 人数: 845人
- 会場: 帯広大谷高校
- イベント: 学校の文化祭の一環

- **特徴:** 初めての大規模な同時作成記録

2.1.2 能代市（秋田県）

- **日付:** 2016年7月17日
- **人数:** 858人（907人が挑戦）
- **主催:** 能代市青年会議所
- **失格数:** 49人（失格率5.4%）
- **更新期間:** わずか9日後

2.1.3 湯川村（福島県）

- **日付:** 2016年10月9日
- **人数:** 976人
- **特徴:** 100人以上の大幅な記録更新

2.1.4 旭川市（北海道）

- **日付:** 2016年10月10日
- **人数:** 1,273人（1,292人が挑戦）
- **主催:** 上川地区農業協同組合
- **イベント:** 秋の収穫祭2016
- **使用米:** 北海道産「ゆめぴりか」（プレミアム品種）
- **失格数:** 19人（失格率1.5%）
- **特徴:** 翌日に記録更新という驚異的なスピード

旭川市の厳格な審査基準: - 各おにぎりに梅干し1個を中に入れる - 制限時間5分以内 - おにぎりの形が保たれていること - 梅干しが外から見えないこと - 最低重量・サイズの基準を満たすこと - 公式審判員が全てのおにぎりを個別検査

2.1.5 鳥取市（鳥取県）

- **日付:** 2016年10月16日
- **人数:** 1,436人
- **会場:** 美保南小学校
- **特徴:** 旭川市の記録発表を受けて参加者数を増員

2.1.6 桑名市（三重県）

- **日付:** 2016年11月3日
- **人数:** 1,621人（1,670人が挑戦）
- **失格数:** 49人（失格率2.9%）
- **特徴:** 2016年の最終記録

2.2 この競争から学べる重要ポイント

- **メディア効果:** 各記録達成がニュースとなり、他地域の挑戦を刺激
- **地域活性化:** 地方自治体や農協が地域PRとして活用
- **コミュニティ結束:** 学校、企業、住民が一体となって参加
- **スピード感:** 記録更新の情報が伝わると、数週間で次の挑戦が実現
- **失格率の管理:** 適切な事前練習により失格率を1.5-5.4%に抑制

3. 記録達成の技術的要件

3.1 基本ルール

制限時間: 5分以内

おにぎりの条件: 1. 梅干し1個を中に入れる 2. 梅干しが外から見えない状態にする 3. おにぎりの形が崩れていない 4. 最低限の重量とサイズを満たす 5. 審判員の個別検査に合格する

3.2 失格となる理由

- **梅干しが見える:** 最も多い失格理由
- **形が崩れている:** 握りが弱い、米がポロポロ落ちる
- **サイズ不足:** 小さすぎるおにぎり
- **重量不足:** 米の量が少なすぎる
- **時間超過:** 5分以内に完成しなかった

3.3 失格率の実績データ

開催地	挑戦者数	成功者数	失格数	失格率
旭川市	1,292	1,273	19	1.5%
桑名市	1,670	1,621	49	2.9%
川崎市	1,980	1,876	104	5.3%
能代市	907	858	49	5.4%

分析: 失格率は1.5-5.4%の範囲。2,200人規模の挑戦では、33-119人の失格を見込む必要があります。

4. 2026年5月挑戦の具体的計画

4.1 開催概要

- **開催地:** 福岡県糸島市
- **開催日:** 2026年5月30日（土）または31日（日）
- **目標:** ギネス世界記録更新（現記録1,876人超え）

4.2 目標設定

推奨目標: 2,000人以上の成功 - 現記録(1,876人)を約6.6%上回る - 挑戦者総数: 2,200人を募集（最低ライン2,100人、詳細はリスク1を参照） - 予想失格率を5%と仮定して余裕を持たせる（ $2,200 \times 0.95 = 2,090$ 人）

4.3 タイムライン（約3.5ヶ月計画）

4.3.1 第1段階: 企画立案（2月中旬-2月下旬、2週間）

Week 1: - 実行委員会の立ち上げ - 予算概算の作成 - 会場候補地のリストアップ - スポンサー候補企業のリスト作成

Week 2: - ギネス申請の開始・完了（2月中の完了を推奨、標準審査12週間の余裕確保） - 自治体・農協への協力依頼 - 会場の仮予約 - 米の調達先との初期交渉 - 保健所への事前相談（糸島保健所、大規模食品

イベントの届出要件確認） - 消防署への届出・避難計画の事前協議（2,500人超の屋内催事届出、避難経路の確認）

4.3.2 第2段階: 準備・募集（3月上旬-4月下旬、8週間）

Week 3-4（3月上旬）：- 会場の正式契約 - 実行委員会の組織体制確立 - プレスリリース第1弾の配信 - 参加者募集開始（オンライン・ポスター・チラシ）

Week 5-6（3月中旬-下旬）：- 参加者募集の集中追い込み - **募集締切: 3月末（第1回練習会4/4の前に全参加者を確定）** - 米（240kg）の正式発注 - 梅干し（4,700個）の調達 - ボランティアスタッフ募集（250-300人） - メディア取材の受付開始 - SNSでの情報拡散

Week 7-8（4月上旬-中旬）：- 全参加者（目標2,200人）の登録確定済みを前提に練習会を開始 - 完結型練習会 第1回・第2回の開催（4/4土、4/12日） - 練習会第1回で動画マニュアル素材を撮影（スマートフォンで講師実演・手順を収録） - セクションリーダー候補の選出・声かけ - 審判員チームの編成 - 会場レイアウトの決定

Week 9-10（4月中旬-下旬）：- 完結型練習会 第3回・第4回の開催（4/18土、4/26日） - 練習会参加状況の集計・未参加者へのリマインド - ボランティアスタッフ初期オリエンテーション（役割説明・当日の流れ共有） - 当日運営マニュアルの作成

4.3.3 第3段階: 最終準備（5月上旬-5月下旬、約4週間）

Week 11-14（5月上旬-下旬）：- ギネスからの承認・ガイドライン受領の確認（未受領の場合はギネスへ問い合わせ） - ガイドラインに基づく審査方法・証拠収集方法の最終調整 - 動画マニュアル完成・練習会未参加者へ配信 - 参加者最終確認 - 材料の最終チェック - 会場設営のリハーサル - セクションリーダー専用研修の実施（5月中旬） - 審判員トレーニングの実施（5月第4週、本番1週間前） - ボランティアスタッフの最終研修 - メディア向け最終プレスリリース - 緊急連絡網の確認

4.3.4 第4段階: 実行当日（5月最終週末）

推奨日時: 2026年5月30日（土）または31日（日）午前 - 気候が安定し屋外会場も選択可能（雨天対策として屋内会場を推奨） - コア時間帯は午前10時～11時30分（挑戦・審査・結果発表・閉会式） - スタッフの準備開始は7時、片付け完了は13時（会場使用は計6時間）

4.4 会場選定の基準

4.4.1 必須条件

収容能力: - 2,500人以上が同時に入場可能 - 参加者1人あたり約1.5㎡の作業スペース（テーブル・立ち作業スペース・審判員通路を含む） - 総面積: 3,750-4,500㎡以上（参加者エリア約3,300㎡＋ステージ・受付・スタッフ動線等）

設備要件: - 作業用長机（1.8m折りたたみ机 約550台、片側4人配置、レンタル対応可） - 手洗い設備が充実（感染症対策） - 屋内施設（雨天対策） - 空調設備（換気対策） - 駐車場（会場内500台＋臨時駐車場400台以上を確保、またはシャトルバス運行で対応） - トイレ設備（50個以上） - 音響設備（アナウンス用） - 電源設備（記録撮影・照明用） - 見学エリア（100-200㎡、会場内の安全な区画。未就学児同伴の家族等が利用） - バリアフリー対応（車椅子アクセス経路、多目的トイレ、車椅子利用者向け作業位置の確保）

4.4.2 候補施設タイプ

・体育館・アリーナ

- ・メリット: 広大なフラットスペース、音響設備完備
- ・デメリット: 手洗い設備が限定的な場合がある
- ・例: 市民体育館、総合スポーツセンター

・展示会場・コンベンションセンター

- ・メリット: 大規模収容、充実した設備
- ・デメリット: 使用料が高額
- ・例: 見本市会場、産業展示場

・大学・高校の体育施設

- ・メリット: 比較的安価、若者の参加促進
- ・デメリット: 利用制限がある場合も
- ・例: 大学の総合体育館、高校の大講堂

4.5 予算計画

4.5.1 収入の部（概算）

項目	金額	備考
参加費（割引適用込み）	¥1,650,000	下記の割引適用を考慮
スポンサー収入	¥3,200,000	下記スポンサーメニューを参照
自治体補助金	¥400,000	糸島市地域振興補助金・福岡県イベント助成金等
クラウドファンディング	¥300,000	リターン: 記念グッズ、当日優先見学席等
物販・グッズ販売	¥300,000	記念Tシャツ等
出店料収入	¥200,000	飲食・物販ブース10-20店（¥10,000-20,000/店）
収入合計	¥6,050,000	

スポンサーメニュー（想定）：

ランク	口数	単価	小計	主な特典
冠スポンサー	1社	¥1,000,000	¥1,000,000	イベント名に社名冠、全メディア露出、ステージ挨拶 枠
ゴールド	2社	¥500,000	¥1,000,000	横断幕掲示、プレスリリース掲載、ブース出展権
シルバー	3社	¥200,000	¥600,000	ポスター・チラシにロゴ掲載、会場内バナー
ブロンズ	6社	¥100,000	¥600,000	パンフレットにロゴ掲載
合計	12社		¥3,200,000	

冠スポンサー候補: JA糸島（米の提供を現物協賛に含む可能性あり）、地元金融機関、福岡都市圏の食品企業

参加費の内訳（ターゲット層に基づく想定）： - 一般個人（¥1,000）：約220人 = ¥220,000 - 家族割引（¥800）：約660人 = ¥528,000 - 学生割引（¥500）：約550人 = ¥275,000 - 団体割引（¥800）：約440人 = ¥352,000 - シニア割引（¥800）：約330人 = ¥264,000 - 合計: 約¥1,639,000 → 切り上げ¥1,650,000

4.5.2 支出の部（概算）

項目	金額	備考
会場費	¥300,000	市営体育館等の公共施設を想定（練習会4回+本番、民間施設の場合は増額の可能性あり）
米の調達（240kg）	¥96,000	プレミアム米¥400/kg（本番+練習会4回分）
梅干し（4,700個）	¥188,000	1個¥40（本番+練習会4回分）
容器・ラップ等消耗品	¥200,000	使い捨て容器、手濡らし用水容器等
テーブル・作業台レンタル	¥350,000	1.8m長机約550台（片側4人配置）
ギネス優先審査	¥600,000	5営業日で承認（詳細はギネス申請プロセスを参照）
ギネス公式審判員派遣	¥2,000,000	当日認定・証拠収集負担軽減（実費¥1,500,000-3,000,000、中間値で計上）
審判員・スタッフ人件費	¥500,000	ボランティア謝礼含む
広告宣伝費	¥400,000	ポスター、チラシ、Web
映像・記録撮影	¥300,000	プロカメラマン、ドローン
音響・設備レンタル	¥200,000	マイク、タイマー表示
保険料	¥100,000	イベント保険
物販制作費	¥150,000	記念Tシャツ等の制作原価
その他雑費	¥250,000	廃棄物処理費・臨時駐車場シャトルバス費用等
予備費	¥416,000	想定外の支出に備える
支出合計	¥6,050,000	

※ 公式審判員派遣費は実費¥1,500,000-3,000,000の幅があり、中間値¥2,000,000で計上。見積もり確定後に調整のこと。

材料の必要量算出根拠:

米: - おにぎり1個あたり生米約45g（本番・練習会ともに1人1個、ギネス挑戦と同条件） - 本番2,200人分: 約100kg - 練習会4回（各550人 × 45g ≈ 各約25kg）: 約100kg - 予備20%込み: 合計約240kg

手濡らし用水: - おにぎりを握る際、手に米がつかないように水で手を濡らす必要がある - 1人1個の水容器（使い捨てカップまたは小皿）を各作業位置に配置 - 本番2,200個 + 練習会4回分2,200個 + 予備 = 約4,600個（消耗品費に含む） - 清潔な水をポリタンク等で確保し、配膳時にあわせて注水

炊飯設備: - 本番用約100kgを当日早朝に別施設で炊飯（4:00-7:00、詳細はタイムテーブル参照） - 練習会は各回約25kgを同様に事前炊飯し、握れる温度に冷却した状態で提供 - 大型炊飯器（5升炊き）15-20台（本番）、または防災用炊き出し大釜の借用 - 農協・自治体の防災備蓄設備の活用を優先し、不足分はレンタル（その他雑費に含む）

梅干し: - 本番2,200人分 + 予備: 2,300個 - 練習会4回（各550人想定）: 2,200個 - 予備: 200個 - 合計: 4,700個

収支: 収入¥6,050,000 - 支出¥6,050,000 = **±¥0**（予備費¥416,000を計上済み）

4.6 参加者募集戦略

4.6.1 ターゲット層

- ・**家族連れ（30%、660人）**
 - ・親子でのイベント参加
 - ・週末のファミリーアクティビティ
 - ・子供の食育・文化体験
- ・**学校・教育機関（25%、550人）**
 - ・小中学校のクラス単位参加
 - ・学生サークル
 - ・PTA組織
- ・**企業・団体（20%、440人）**
 - ・CSR活動としての参加
 - ・チームビルディング
 - ・地域貢献活動
- ・**高齢者・コミュニティ（15%、330人）**

- 老人会・シニアクラブ
- 地域コミュニティセンター
- 趣味サークル
- 一般個人（10%、220人）
- ギネス記録への興味
- 新しい体験を求める人々
- SNS発信目的

4.6.2 募集チャネル

オンライン（50%）：- 専用Webサイトの開設 - SNS広告（Facebook、Instagram、X（旧Twitter）） - 地域情報サイトへの掲載 - オンライン申込みフォーム

オフライン（50%）：- 市役所・公民館でのポスター掲示 - 学校への直接案内 - 地域新聞への広告掲載 - 回覧板・地域掲示板

4.6.3 参加費設定

推奨参加費：¥1,000/人 - 家族割引：3人以上で¥800/人 - 学生割引：小中高校生¥500 - シニア割引（65歳以上）：¥800 - 団体割引（20人以上）：¥800/人

4.6.4 参加条件

- **対象年齢**：小学生以上（おにぎりを自力で1個作れること）
- **小学生の参加**：保護者の同伴・同席が必要（保護者も参加者として登録）
- **未就学児**：安全上の理由から参加不可（見学エリアにて保護者と待機可）
- **アレルギー確認**：使用する梅干しの原材料（はちみつ・大豆等の有無）を事前に公表し、参加申込時にアレルギーの有無を確認する。アレルギー該当者への対応（代替具材の使用可否等）はギネス側と事前協議

4.7 事前練習プログラム

4.7.1 練習会の設計方針

各参加者が**1回の参加で全スキルを習得**できる完結型セッションを設計し、それを複数回開催することで全参加者をカバーする。段階的カリキュラム（基礎→応用→実践）ではなく、1回で基礎から本番シミュレーションまでを一貫して行う方式を採用する。

メリット: - 参加者の日程調整が容易（1回参加で完結） - 家族連れ・シニア層の参加離脱を防止 - 材料費を抑えつつ全員に均等な練習機会を提供 - 1回あたり550人規模で質の高い指導が可能

4.7.2 練習会の開催（参加を強く推奨）

目的: 失格率を5%以下に抑える

開催回数: 4回（同一内容） - 第1回: 4月第1週（土曜） - 第2回: 4月第2週（日曜） - 第3回: 4月第3週（土曜） - 第4回: 4月第4週（日曜）

各回の定員: 約550人（4回 × 550人 = 2,200人をカバー）

各参加者は上記のいずれか1回に参加。申込時に希望日を選択し、定員管理を行う。参加者募集は3月末に締め切り、4月の練習会開始前に参加希望者全員の参加回を確定させる。

4.7.3 完結型セッション（120分）

本番と同じく**1人1個のおにぎり作成**を練習する。講師実演と失格例研究で知識を付けた上で、本番シミュレーションで実際に1個作成する構成。

時間	内容	詳細
0:00-0:15	オリエンテーション	ギネス記録の歴史と意義、当日の流れ
0:15-0:45	実演・解説	講師が実演しながら解説（手洗い、計量、梅干し配置、握り方のコツ）
0:45-1:05	失格例の研究	合格・不合格の実物比較、よくある失敗パターンと回避方法
1:05-1:25	本番シミュレーション	本番と同条件で 1人1個 作成（5分計時、審判チェック、個別フィードバック）
1:25-1:50	振り返り・改善指導	結果の講評、成功のコツ共有、改善ポイントの個別アドバイス
1:50-2:00	質疑応答	当日の注意事項、簡易マニュアルの配布

4.7.4 練習会の運営体制（各回共通）

各回550人の参加者に対し、以下のスタッフを配置する。

役割	人数	備考
講師（ステージ）	1-2人	実演・解説・失格例研究を担当
巡回指導員	20-30人	シミュレーション中の個別チェック・フィードバック（セクションリーダー候補を兼ねる）
練習用審判員	20-25人	おにぎりの合否判定練習（本番審判員のトレーニングを兼ねる）
受付・誘導	5-10人	参加者受付、座席案内
材料準備	5-10人	炊飯済み米・梅干し・水容器の配膳

合計: 約50-75人/回

練習会の巡回指導員・練習用審判員は、本番のセクションリーダー・審判員の候補者がそのまま務めることで、指導側も実践経験を積むことができる。

4.7.5 セクションリーダー制

当日の現場フォロー体制として、**セクションリーダー**を配置する。

人数: 約110人（参加者20人に1人）

役割: - 当日、自分の周囲20人の参加者をサポート - 手順のリマインド、梅干しの隠し方のアドバイス - 困っている参加者への声かけ

選出対象: ボランティアスタッフ、学校の先生、企業の担当者、町内会リーダーなど

追加研修: 練習会に加え、セクションリーダー専用の研修を**1回（60分）**受講 - 審判基準の詳細理解 - よくある失敗への対処法 - 周囲のフォロー方法の実践練習 - 開催時期: 5月中旬（本番約2週間前）

4.8 当日の運営体制

4.8.1 人員配置

運営スタッフ総数: 約410人（うちセクションリーダー110人は参加者兼任）

役割	人数	業務内容
総合指揮	5人	全体統括、意思決定
受付・誘導	50人	参加者受付、会場案内
審判員	100人	おにぎり検査（1人約22個担当）
記録・撮影	20人	ビデオ・写真撮影、データ記録
時間管理	10人	タイマー操作、時間告知
材料配布	30人	米・梅干しの配布
医療・安全	10人	応急処置、安全管理、避難誘導
清掃・衛生	20人	手洗い場管理、清掃、廃棄物分別・回収（うち1名は食品衛生責任者を配置）
メディア対応	5人	取材対応、プレス窓口
セクションリーダー	110人	参加者20人に1人、現場フォロー
予備要員	50人	緊急対応、補助業務

4.8.2 タイムテーブル（当日）

4:00-7:00 炊飯準備（別施設・炊飯チーム先行） - 4:00: 炊飯チーム集合（材料配布スタッフから10-15人選出）、農協施設・公民館調理室等の別施設にて作業 - 4:00-5:00: 洗米・浸水（本番用約100kg） - 5:00-6:30: 炊飯（大型炊飯器または炊き出し用大釜を使用） - 6:30-7:30: 冷却（握れる温度30-40℃まで、大きなバットに広げて効率的に放熱） - 7:30-8:00: 冷却完了分を会場へ搬入（保冷カバー付き容器で搬送） - 8:00-9:00: 会場にて個別計量・ラップ包装（1人分約100g〈生米45g相当〉）ずつトレイに配置。材料配布スタッフ30人＋炊飯チーム15人の計45人体制で実施。包装後は直射日光を避けた涼所で一時保管） - 9:00-9:25: 受付完了ゾーンから順次、米・梅干し・水容器を各参加者の席に配膳（材料配布30人を3班×10人に分け、各班が3-4ゾーンを担当。1ゾーン約200席を10人で配膳、所要約5分/ゾーン） - 9:25-9:30: 全ゾーンの配膳完了を材料配布班長が総合指揮へ報告。炊飯チームは9:00の計量完了後に交代休憩

※ 炊飯は会場外の別施設（農協の調理設備・公民館調理室・防災炊き出し用大釜等）で実施し、炊飯済み米を会場へ搬入する。これにより会場使用時間は7:00-13:00の6時間を維持する。設備借用・レンタル費用はその他雑費に含む。 ※ **温度管理:** 炊飯後の米は危険温度帯（10-60℃）を通過するため、冷却→搬入→配膳→使用の各工程で滞留時間を最小化する。保健所との事前相談時に、本計画の温度管理タイムライン（炊飯完了→使用まで約3.5時間）について承認を得ること。

7:00-8:30 準備 - スタッフ集合・最終ブリーフィング - 会場設営完了確認 - 材料（炊飯済み米の搬入受け入れ・梅干し）の最終チェック - 撮影機材のセットアップ - 音響・タイマー動作確認

8:00-9:30 受付 - 参加者受付開始（90分間で2,200人を処理、50窓口×1人約2分） - ギネス証拠用の参加者リストへの署名（受付時に実施） - 撮影・肖像権の同意確認（参加申込時にオンラインで事前同意済み、当日は確認のみ） - 番号札配布（ゾーン記号入り、会場はA-Kの11ゾーンに分割・各約200人） - 誘導スタッフがゾーン入口まで案内 - 体調確認

9:30-9:50 開会式 - 主催者挨拶 - 来賓挨拶 - ギネス公式説明 - ルールの最終確認 - メディア撮影タイム

9:50-10:00 最終準備・リマインド - ステージでの手順リマインド実演（梅干しの包み方、握り方のコツ、よくある失格例の注意喚起） - 手の清潔確認（配布済みの水容器で手を濡らす手順を案内） - 審判員の配置完了 - カメラ準備完了

10:00-10:05 挑戦開始 - カウントダウン - **10:00:00 スタート** - 5分間の挑戦 - 各段階での時間告知（残り3分、2分、1分、30秒）

10:05-10:45 審査（巡回検査方式） - 審判員が担当エリア（各約22人）を巡回し、各参加者の作業位置でおにぎりを検査 - 合格・不合格の判定（判定記録シートに記入） - 各エリアの集計を審判長に報告、独立2チームによるダブルチェック - **参加者は審査完了まで着席を維持**（セクションリーダーが声かけ） - ステージでは記録の歴史紹介映像・糸島市PRコンテンツを上映し、待機時間を有効活用

10:45-11:00 結果発表 - 成功者数の発表 - ギネス記録達成の宣言 - 記念撮影 - 参加者全員への感謝

11:00-11:30 閉会式 - ギネス認定証の授与（後日の場合は仮証書） - 参加証明書の配布 - メディアインタビュー - 参加者は自分のおにぎりを持ち帰り（**持ち帰り後は2時間以内の喫食を推奨**、注意書きカードを配布）

11:30-13:00 片付け - 廃棄物の分別回収（食品廃棄物・プラスチック・一般ごみの3分別） - 会場清掃 - 機材撤収 - スタッフ慰労会

4.9 審査基準と検査プロセス

4.9.1 審判員の訓練

必須トレーニング: 当日1週間前に実施

訓練内容: 1. ギネス規定の詳細説明 2. 合格・不合格の判定基準 3. サンプルおにぎりでの判定練習 4. 境界線ケースの判断方法 5. 記録シートの記入方法

4.9.2 検査チェックリスト

各審判員は以下の項目を確認:

- ✓ **形状:** - 三角形または丸型が保たれているか - 崩れや変形がないか
- ✓ **梅干しの位置:** - 外から見えていないか - 完全に米で覆われているか
- ✓ **サイズ:** - 最低基準を満たしているか - 目視および必要に応じて計測
- ✓ **重量:** - 適切な米の量を使用されているか - 軽すぎないか（抜き取り検査）
- ✓ **完成度:** - 時間内に完成しているか - 食品として適切な状態か

4.9.3 判定プロセス

- **1次検査（目視）:** 全審判員が担当分を目視
- **疑義ある場合:** 上級審判員が再検査
- **最終判定:** 審判長が判断
- **集計:** 合格数を複数人で確認
- **ダブルチェック:** 独立した2つのチームで集計

4.10 記録・証拠の収集

4.10.1 必須の記録資料

ビデオ記録: - メインカメラ: 会場全体を俯瞰（高所固定カメラ推奨。ドローン使用時は航空法に基づく許可申請・施設管理者の承認が必要） - サブカメラ1: 参加者の作成風景（複数アングル） - サブカメラ2: タイマー表示の連続撮影 - サブカメラ3: 審査プロセスの記録 - 最低要件: 開始から終了まで連続した記録

写真記録: - 開始前: 全参加者の集合写真 - 進行中: 作成風景（多数） - 完成後: 完成したおにぎりの配列 - 審査中: 審判員による検査風景 - 最低300枚以上の写真

文書記録: - 参加者全員の署名入り参加者リスト - 証人（第三者）の宣誓書 - タイムキーパーの記録シート - 審判員の判定記録シート（全数分） - 気象条件・温度などの環境データ - 参加者全員の撮影・肖像権同意書

4.10.2 証人の手配

独立した証人: 最低2名必要 - 弁護士、公認会計士、公証人など - イベントに利害関係のない第三者 - 開始から終了まで立ち会い - 署名入り証明書を作成

4.11 ギネス申請プロセス

4.11.1 標準申請（無料）

申請方法: 1. ギネス公式サイトでアカウント作成 2. 「Apply for a record」を選択 3. 既存の記録カテゴリーを選択 4. 挑戦予定日を入力 5. 審査完了後、承認通知とともにガイドライン資料が送付される（申請直後には届かない）

審査期間: 最大12週間

注意（スケジュールリスク）: 3月上旬に申請完了した場合、審査完了は最大で5月下旬となり、5月30日の本番直前まで承認が得られない可能性がある。**2月中に申請を完了するか、優先審査の利用を強く推奨**する。

メリット: 費用がかからない

デメリット: - 審査に時間がかかる - 公式審判員の派遣なし - 証拠収集が複雑

4.11.2 優先審査（有料: 約¥600,000）

申請方法: 1. 標準申請と同様の手順 2. 優先審査オプションを選択 3. 支払い手続き

審査期間: 5営業日

メリット: - 迅速な承認 - 専任コンサルタントのサポート - ガイダンスが詳細

デメリット: - 高額な費用 - それでも公式審判員派遣は別料金

4.11.3 公式審判員派遣（予算計上済み）

費用: 別途見積もり（通常¥1,500,000-¥3,000,000）

メリット: - 当日その場で認定 - 証拠収集の負担軽減 - メディア効果が最大化 - 参加者の達成感が即座に得られる

検討: - スポンサー収入で賄えるか - メディア効果を金額換算すると妥当か - 地域の記念事業として位置づけられるか

4.12 リスク管理と対策

4.12.1 想定されるリスク

1. 参加者不足 - リスク: 目標人数に達しない - **対策:** - 早期募集開始（3ヶ月前） - 複数の募集チャネル活用 - 参加特典の充実 - キャンセル待ちリスト作成（募集締切後のキャンセル補充用） - **3月末時点の判断基準:** - **2,100人以上:** 予定通り実施 - **1,900-2,099人:** 続行（記録更新は十分可能）、追加募集を4月第1週まで延長し、練習会第1回に間に合わせる - **1,900人未満:** 実行委員会で続行/延期を協議（失格率5%で1,805人となり、現記録1,876人を下回るリスクが高い）

2. 失格率の上昇 - リスク: 予想以上の失格で記録未達 - **対策:** - 完結型練習会への参加を強く推奨（全4回のいずれか1回）、参加率80%以上を目標 - 練習会未参加者には動画マニュアル・図解ガイドを事前送付し、自主練習を促す - 練習会参加率が70%を下回った場合、追加練習会（5月上旬）の開催を検討 - 挑戦者を5-10%多く募集 - セクションリーダーによる当日の現場フォロー - 当日開始前の10分間リマインド実演（9:50-10:00、材料配布と同時進行） - 図解入り簡易マニュアルの配布

3. 材料の問題 - リスク: 米や梅干しの品質・数量不足 - **対策:** - 予備材料の確保（米20%、梅干し約7%） - 信頼できる複数の調達先 - 事前の品質チェック - 当日朝の最終確認

4. 設備トラブル - リスク: タイマー故障、映像機器の不具合 - **対策:** - 全機器のバックアップ用意 - 前日の動作確認 - 技術スタッフの常駐 - マニュアル記録も併用

5. 天候・災害 - リスク: 台風、大雨、地震などの不可抗力 - **対策:** - 屋内会場の選択（必須） - 予備日はギネス公式審査員の出席調整等を考慮し設けない予定（屋内会場で天候リスクを回避） - 中止基準の明確化（地震等の不可抗力のみ） - 返金ポリシーはリスク7を参照

6. 感染症対策 - リスク: インフルエンザ、ノロウイルス等 - **対策:** - 手洗い・消毒の徹底 - マスク着用推奨 - 体調不良者の参加辞退要請 - 医療スタッフの配置 - 食品衛生管理の徹底

7. スポンサー・補助金収入の未達 - リスク: スポンサー収入（¥3,200,000、収入の53%）や補助金・クラウドファンディングが目標に届かない - **対策:** - スポンサー交渉は第1段階（2月中）に開始し、3月上旬までに冠・ゴールドの確約を優先取得 - 自治体補助金は2月中に申請（審査に1-2ヶ月を見込む） - クラウドファンディングは3月上旬に開始（募集期間45日間） - スポンサー確定額に応じて支出項目を調整（広告宣伝費・映像記録費等の削減） - **収入確保の優先順位:** スポンサー → 補助金 → クラウドファンディング → 参加費値上げ（最終手段） - **返金ポリシー:** 参加費は理由を問わず返金不可（天候・災害等の不可抗力を含む）。収入状況にかかわらずイベントは実施する

8. 挑戦前の記録更新 - リスク: 2026年5月までに他団体が現記録（1,876人）を更新する - **対策:** - ギネス公式サイトで記録の動向を定期的に確認（月1回以上） - 新記録が判明した場合、目標人数の上方修正または募集人数の追加を検討 - 新記録が大幅に上回る場合（例: 2,500人超）、実行委員会で挑戦継続の可否を判断

4.12.2 保険の加入

イベント保険: 必須 - 施設賠償責任保険 - 参加者傷害保険 - 主催者賠償責任保険 - 費用総額: 約¥100,000

4.13 広報・メディア戦略

4.13.1 プレスリリースの展開

第1弾（3月中旬）: 挑戦発表 - タイトル: 「ギネス世界記録に挑戦！おにぎり同時作成2,000人規模イベント開催」 - 内容: イベント概要、参加者募集開始、主催者の思い

第2弾（4月中旬）: 進捗報告 - タイトル: 「全2,200人の参加者確定！練習会も順調に進行中」 - 内容: 参加者確定報告、協賛企業紹介、練習会の様子

第3弾（5月中旬）: 直前告知 - タイトル: 「いよいよ月末！2,000人でおにぎり作りギネス世界記録に挑戦」 - 内容: 最終参加者数、当日スケジュール、見学案内

第4弾（当日夜または翌日）: 結果速報 - タイトル: 「ギネス世界記録達成！〇〇人でおにぎり同時作成の新記録」 - 内容: 結果詳細、参加者コメント、記録認定の見通し

4.13.2 メディア対応

取材受入れ: - 地元テレビ局（NHK、民放各局） - 全国ネットワークニュース - 地域新聞社 - 雑誌・ウェブメディア - YouTuber・インフルエンサー

プレス向け特典: - 専用撮影エリアの設置 - 事前資料の配布 - 主催者・参加者インタビュー機会 - 記録達成後の優先取材権

4.13.3 SNS戦略

公式アカウント開設: - X（旧Twitter）: リアルタイム情報発信 - Instagram: ビジュアル重視の投稿 - Facebook: イベントページ作成 - YouTube: 練習会や準備風景の動画

ハッシュタグ: - #ギネス世界記録 - #おにぎり同時作成 - #糸島市ギネス挑戦 - #onigiri - #GuinnessWorldRecords

投稿計画: - 週3回以上の定期投稿 - カウントダウン投稿（当日まで） - 参加者紹介シリーズ - 裏側・準備風景の公開 - ライブ配信（当日）

4.14 記録未達の場合

失格率が想定を超え、成功者数が現記録（1,876人）に届かなかった場合：

- ・参加者へ：挑戦したこと自体の価値を強調し、参加証明書は全員に配布する
- ・メディアへ：「次回への布石」としてポジティブに発信（「〇〇人が参加した糸島市の挑戦」）
- ・再挑戦：6ヶ月以内に再挑戦の時期を設定し、今回の参加者に優先案内を行う
- ・振り返り：失格率・運営上の課題を分析し、次回計画に反映する

4.15 記録達成後の展開

4.15.1 短期的施策（1ヶ月）

1. 公式認定の取得 - イベント後2週間以内にギネスへ証拠資料を提出（担当：記録・撮影チーム責任者） - 提出物：編集済みビデオ、写真(300枚以上)、署名入り参加者リスト、証人宣誓書、審判員判定記録、タイムキーパー記録、撮影同意書 - 認定審査期間：提出後4-8週間（追加質問への対応窓口を維持） - 認定証到着後の記念式典
2. 地域への還元 - 参加者全員への参加証明書配布 - 記録達成報告会の開催 - 地域メディアでの継続報道
3. 記録の活用 - 観光PR素材として活用 - 地域ブランド向上 - 次年度イベントへの布石

4.15.2 中長期的施策（1年）

1. 定例イベント化 - 年1回の「おにぎりの日」制定 - ギネス記録の更新挑戦 - 地域の名物行事として定着
2. 経済効果の拡大 - 地元米の販売促進 - 観光客の誘致 - 関連商品の開発
3. 教育・文化振興 - 学校教育への組み込み - 食育プログラムの展開 - 日本文化の発信

5. 成功事例から学ぶ重要ポイント

5.1 旭川市の成功要因（1,273人、2016年）

- ・地域農協の全面支援：上川地区農協が主催し、組織力を活用
- ・プレミアム米の使用：北海道ブランド「ゆめぴりか」で話題性
- ・厳格な品質管理：失格率1.5%という驚異的な低さ
- ・収穫祭との連動：既存イベントとの組み合わせで動員力向上

- **徹底した事前練習:** 参加者への丁寧な指導

5.2 川崎JCの成功要因（1,876人、2017年）

- **歴史的意義の強調:** おにぎり発祥の地という文化的背景
- **青年会議所のネットワーク:** 全国組織の動員力
- **子供の夢支援:** 社会的意義のあるテーマ設定
- **メディア戦略:** 事前から当日まで継続的な露出
- **2,000人近い参加者:** 余裕を持った人数設定

5.3 成功のための黄金律

- **目標人数+5-10%を募集:** 失格率を見込んだ設定
- **完結型練習会への参加推奨:** 4回開催で全員カバー、失格率を5%以下に抑制
- **地域組織との連携:** 自治体・農協・企業の協力
- **社会的意義の設定:** 単なる記録挑戦以上の価値
- **メディア戦略の徹底:** 約2.5ヶ月前からの継続的露出
- **充実した当日運営:** 約300人のスタッフ+110人のセクションリーダー体制
- **完璧な記録・証拠:** ビデオ・写真・文書の3点セット

6. 最終チェックリスト

6.1 3ヶ月前までに完了すべき事項

- ☐ 実行委員会の立ち上げ
- ☐ 予算計画の承認
- ☐ ギネス申請の完了（2月中を推奨）
- ☐ 会場の仮予約
- ☐ スポンサー企業・農協への打診開始
- ☐ 消防署への届出・避難計画の事前協議
- ☐ 保健所への事前相談・届出手続き開始
- ☐ 参加者募集の開始

6.2 2ヶ月前までに完了すべき事項（3月下旬）

- ☐ 会場の正式契約
- ☐ プレスリリース第1弾
- ☐ 材料調達先の確定
- ☐ ボランティアスタッフ募集
- ☐ スポンサー確約の取得（¥3,200,000目標、未達の場合は支出調整を決定）
- ☐ 自治体補助金の申請（糸島市・福岡県）
- ☐ クラウドファンディングの準備
- ☐ 参加者募集締切・目標2,200人の確保（最低2,100人、3月末）

6.3 1ヶ月前までに完了すべき事項（4月下旬）

- ☐ 練習会 第1回・第2回の実施完了（4/4土、4/12日）
- ☐ セクションリーダー候補の選出
- ☐ 審判員チームの編成
- ☐ 詳細な当日運営計画
- ☐ メディア取材の受付
- ☐ 独立証人（2名以上）の手配・出席確定

6.4 3週間前までに完了すべき事項（5月上旬）

- ☐ ギネスからの承認・ガイドライン受領の確認
- ☐ 練習会 全4回の実施完了（4/4, 4/12, 4/18, 4/26）
- ☐ 練習会参加状況の確認（未参加者へのリマインド連絡）
- ☐ 材料の最終発注
- ☐ スタッフ最終研修

6.5 2週間前までに完了すべき事項（5月中旬）

- ☐ セクションリーダー専用研修の実施
- ☐ プレスリリース第3弾

6.6 1週間前までに完了すべき事項（5月第4週）

- ☐ 会場設営リハーサル
- ☐ 審判員トレーニング
- ☐ 全機材の動作確認
- ☐ 緊急連絡網の確認

6.7 前日までに完了すべき事項

- ☐ 材料の搬入・保管
- ☐ 会場設営の完了
- ☐ スタッフ最終ブリーフィング
- ☐ メディア最終調整
- ☐ 天候・交通状況の確認

6.8 当日の確認事項

- ☐ スタッフ全員の出席確認
- ☐ 参加者受付の円滑な進行（署名入り参加者リストの回収含む）
- ☐ 全カメラの録画開始
- ☐ タイマーの正確な作動
- ☐ 審判員の配置完了
- ☐ 証人の立ち会い確認

7. まとめ:2026年5月の挑戦に向けて

おにぎり同時作成のギネス世界記録挑戦は、日本の食文化を世界に発信する素晴らしい機会であり、地域コミュニティの結束を強める力があります。現在の記録1,876人を上回る2,000人規模の挑戦は、**約3.5ヶ月の準備期間と約560万円の予算（うちギネス関連費約260万円）**があれば十分に実現可能です。

成功の鍵は5つ: 1. 綿密な計画と早期の準備開始 2. 地域組織（自治体・農協・企業）との強固な連携 3. 参加者への完結型練習会（全4回）とセクションリーダー制 4. 当日の完璧な運営体制（約300人のスタッフ＋110人のセクションリーダー） 5. 記録・証拠の確実な収集

この挑戦を通じて、参加者全員が日本の伝統的な食文化を再認識し、地域への誇りを深め、そして何より**世界記録保持者としての生涯の思い出**を手にすることができます。

あなたのギネス世界記録挑戦の成功を心から応援しています！具体的な実行に移す際は、各段階でさらに詳細なサポートも可能です。頑張ってください！